

# つたえる、感じる、つながる 令和2年度 森林×SDGsプロジェクト事業

事業概要-全体報告  
2021年3月3日

株式会社 かいほつマネジメント・コン  
サルティング  
一般社団法人 森と未来

# 事業概要

## 【事業期間】

2020年8月-2021年3月

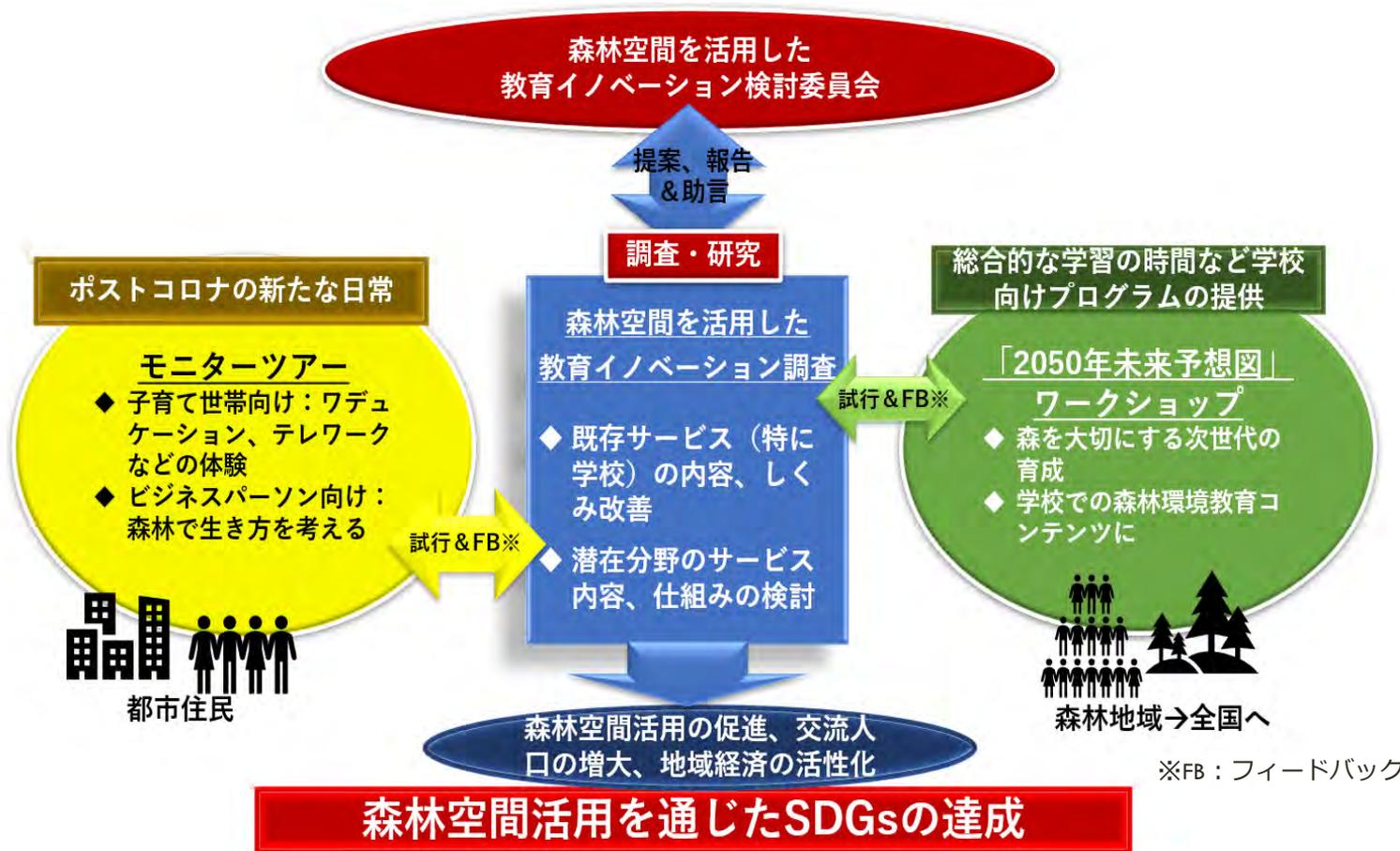
## 【目的】

- 森林空間を活用した自然保育や学校教育、企業研修等、様々な「教育」にかかる現状、ニーズ、課題を調査し、今後の森林環境教育の推進に向けた新たな方向性を検討する。

### → 教育イノベーション調査（本発表）

- これまで森林と関わりの少なかった都市住民や未来の社会の中核を担う中学生・高校生に対して、前者に対し森林の新たな楽しみ方を提案し、後者とは未来予想図を作成する事業を実施、対外的に発信することにより、これら対象層の森林に対する理解・関心を高める。

### → ワークショップ、モニターツアー



# 森林空間を活用した教育イノベーション検討委員会

● **目的**：森林空間を活用した自然保育や学校教育、企業研修等様々な「教育」にかかる現状、ニーズ、課題を調査し、具体的な政策パッケージとして整理を行い、今後の森林環境教育の推進に向けた新たな方向性を検討する。

● **開催**：3回

- 第1回（9月4日）：事業方針の検討
- 第2回（12月3日）：中間報告
- 第3回（2月9日）：報告書内容検討

属性	氏名	所属・役職等（令和2年9月4日現在）
座長	宮林 茂幸	東京農業大学地域環境科学部 地域創成科学科教授 美しい森林づくり全国推進会議 事務局長
委員	天笠 茂	千葉大学特任教授 中央教育審議会副会長
委員	指出 一正	「ソトコト」編集長
委員	島田 由香	ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 取締役人事総務本部長
委員	竹内 延彦	長野県池田町教育長 森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク副代表
委員	南方 慎治	株式会社ルネサンス 営業企画部トラベルチーム課長
委員	山下 宏文	京都教育大学教授 元 森林ESD研究会座長
委員	吉弘 拓生	内閣官房地域活性化伝道師 総務省地域力創造アドバイザー

# 森林空間を活用した教育イノベーション調査

- 目的：SDGs 時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーションの可能性を探る。
- 方法：先進的な森林体験や森林環境教育を提供している事業者や関係者に対する遠隔インデプスイインタビュー※（対象者30人）+文献調査+補完的な顧客アンケート

※対象者と調査者が一対一で対話する、定性調査の代表的なインタビュー手法。

## 本事業が目指す森林環境教育と森林体験の位置付け



### 【問題意識】

行政・学校・地域の連携がなく、学校内外及び子どもの各発達段階に応じた個別の取組が有機的につながっていないのではないか。

# 発達段階に応じた 森林環境教育の現状

- 幼児向け：森のようちえんの人気は高まっているが、供給不足がボトルネック。
- 青少年向け：学校での森林環境教育は授業枠の確保が課題。特に小学校高学年以降、塾や部活で子供は多忙、森林環境教育の空白期間に。
- 社会人向け：黎明期、市場は小さい。経営者向けリトリートなどサービスは多様化。

対象者	短期、単発、訪問型体験		長期、継続、定住型体験	
	サービス内容	実施期間	サービス内容	実施期間
幼児	各種団体、企業が企画する森のようちえんイベント	数時間～1日程度。	森のようちえん	通年。週4～5日の保育
小学生	各種団体、企業が企画する森の学童保育イベント	半日から1日程度。	各種団体、企業が企画する森の学童保育でコース型のもの	数時間～1日、週1～月1回程度
	学校での森林体験イベント（校外学習や林間学校など）	1, 2時間～半日程度。林間学校は1～2泊。	学校での森林体験（森林での教科学習や総合的な時間を利用した森林体験・学習など複数回にわたるもの）	1, 2時間～1日程度を数回～。
	学校以外の組織が企画する森林体験イベント	1, 3時間～半日程度。	学校以外の組織が企画する複数回にわたる森林体験	1時間～1日程度を数回～。定期開催も。
	各種団体、企業が企画するサマーキャンプ	1～2泊程度。最大30泊まで。	山村留学	転校前提で1年間。
中高生	学校での森林体験（登山・林間学校・教育旅行など）	1～2日程度。教育旅行は2～3泊（うちの半日から1日程度）。	学校での森林体験（森林での教科学習や総合的な時間を利用した森林体験・学習など複数回にわたるもの）	1, 2時間～1日程度を数回～。
	学校以外の組織が企画する森林体験イベント	1, 3時間～半日程度。不定期開催が多い。	学校以外の組織が企画する複数回にわたる森林体験	1時間～1日程度を数回～。定期開催も。
成人向け	森林での社員研修・CSR活動	1～数泊程度	/	/
	森林でのエクゼクティブリトリート	1～数泊程度		
	森林でのキャンピングオフィス	数時間～数泊程度	森林でのサテライトオフィス	常設型

学校を中心とした各種組織が実施

学校以外の組織が実施

# 新しい試みと機会

- 教員の負担軽減
- 森林で教科学習を行う工夫
- 地場産業やキャリア教育との連携
- 自然学校との連携
- 地域学校協働活動など地域との連携
- 社会課題解決型の部活動の推進

事例②  
ホールアース福島校

## 学校の枠内



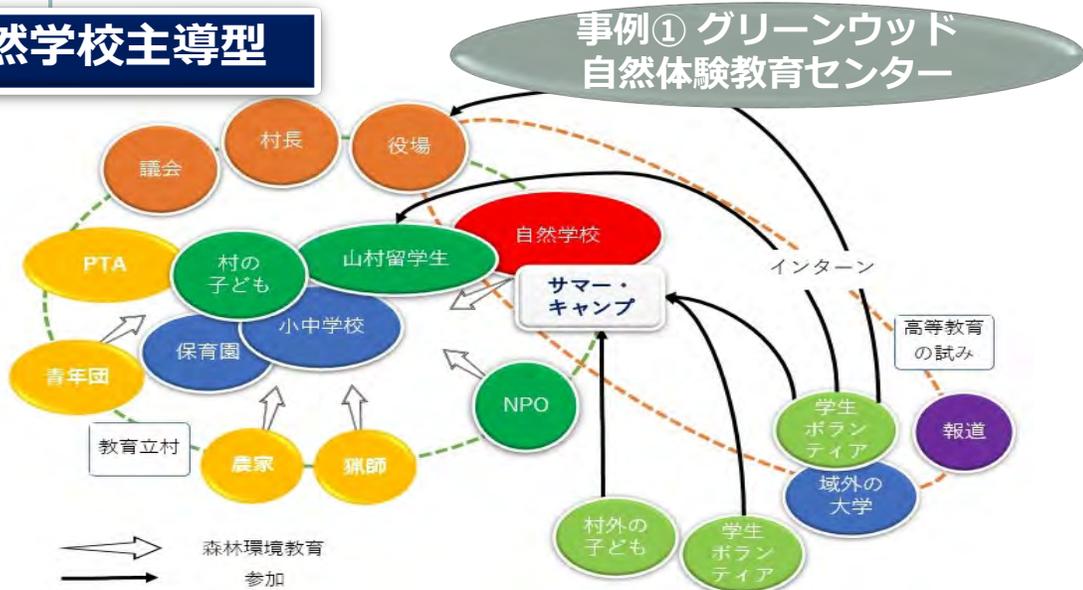
- ライト層や別関心層に向けたプログラムの提供
- 顧客の不安に寄り添い、満足度を高める対応
- 長期キャンプなど多様なプログラムの提供
- 森林を利用したキャンピングオフィスやリトリート、研修サービスの認知拡大
- 教育を軸とした移住振興とコミュニティーづくり
- 地域間連携を軸とした都市部の子供たちへの森林環境教育の提供
- オンラインでの実施などデジタル技術の活用

## 学校の枠外

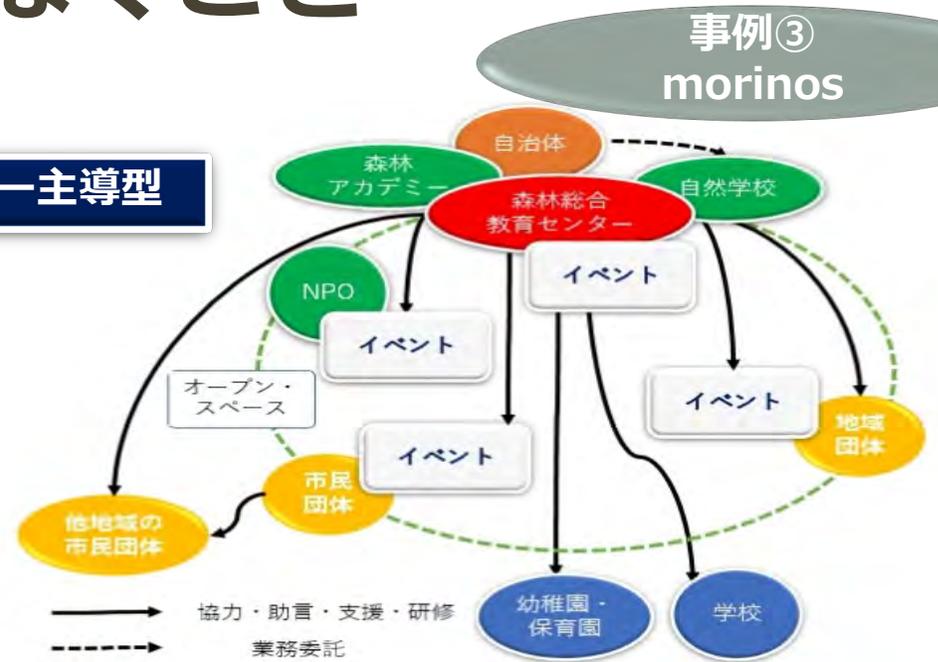


# 森林環境教育を有機的につなぐことに成功しているパターン

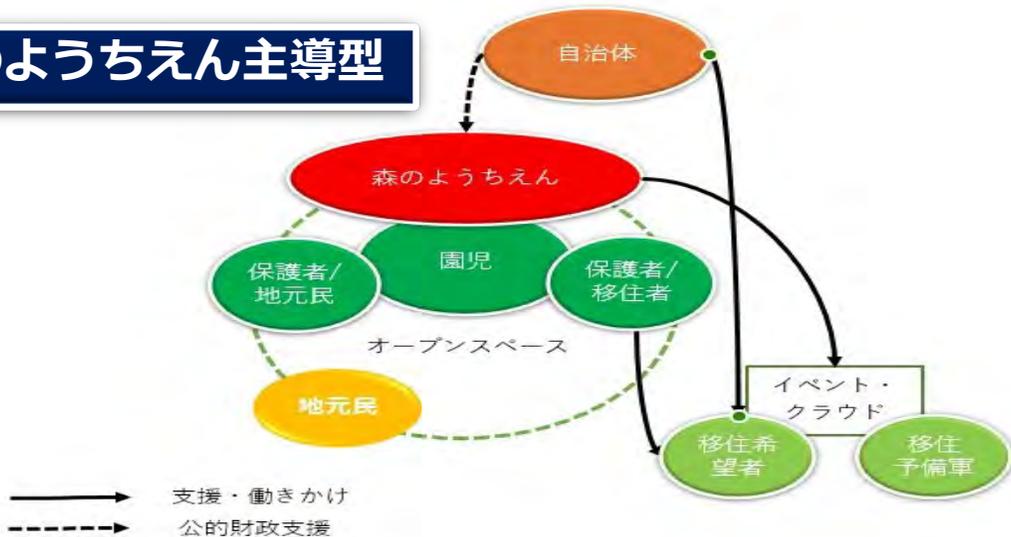
## 自然学校主導型



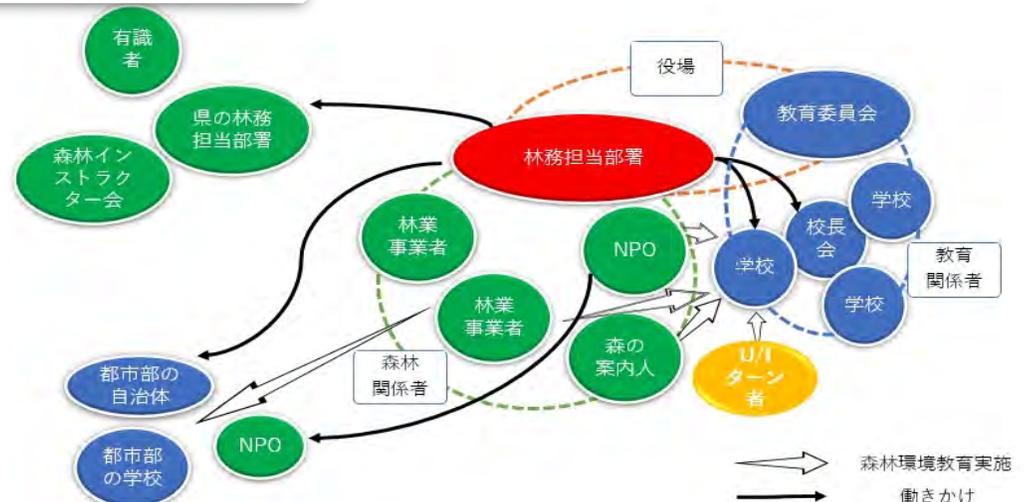
## 公的セクター主導型



## 森のようちえん主導型



## 地場林産業主導型



# 連携体制を築き、持続させるためのキーポイント

## つながる

- 1) **相手の目的・立場に立って**考え、課題を聞き、対処する。
- 2) 人と人をつなげる**人を育て**、人と人がつながる**場を作る**。
- 3) 市民参加も含め、**柔軟に**プログラムを企画・運営する。
- 4) **政策**に積極的に関与する。
- 5) 民間と行政の**マインドの違い**を理解する。
- 6) 行政内の異なる**部署の役割**を知り、柔軟に連携する。

## 続ける

- 1) **継続的に関与し続ける人**、熱量を持ったアクターを育てる。
- 2) 行政の**異動に効果的に対処**する。
- 3) 森林環境教育提供者がつながって**定期的に情報を共有**する。
- 4) **活動資金**を継続的に確保する。
- 5) **特定の人に我慢させない**仕組みを作る。
- 6) 学びを支える**人の循環**を生み出す。
- 7) **地域に根差す**。



# 1. 目的

【対象】  
中学生  
高校生

【未来予想図】とは  
SDGsの趣旨を参考に、地域、日本、世界、地球が2050年にどのようなになっているか、  
その中で、将来の自分たちと森や都市の関係をどうしていきたいか、地域はどうなってほしいかを描く

- ▶ 森林と自分たちの暮らしの関わりを「自分ゴト」化
- ▶ 森林に対する理解・関心を高める

## 2. 開催概要

生活圏内における森林の有無や、日常的な森林との関わりに留意し、5地域を選定。

	東京都内	福岡県篠栗町	山梨県北杜市	静岡県掛川市	長野県根羽村
開催日	10月29日	11月28日	12月1日	12月5日	12月13日
時間（全体/WS）	120分/120分	1日/150分	100分/100分	1日/150分	1日/120分
参加者	中学生20名	中学生19名	中学生40名	高校生12名	小・中学生14名
森林体験	なし	あり 	なし	あり 	あり 
成果物	模造紙、画用紙に絵や言葉で表現				

# 3. 実施方針

①身近な森林とSDGsへのつながり、  
自らできるアクションを考える。

地域の森林体験や自らの森林体験の振り返りを行い、自らの30年後をリアルに想像する。

②森林との様々なかかわり方を知り、  
視野を拓ける

森林サービス産業や最新技術を活用したマテリアル利用など、森林の新たな可能性を紹介。

## ワークショッププログラム（篠栗町での開催例）

内容（150分）	時間
ワークショップ導入（都内開催校のメッセージ視聴）地域の案内人、ファシリテーター紹介、フォレストバトン・パスの説明	20分
ワーク①森の印象	10分
ワーク②未来の森を想像する	15分
ワーク③未来予想図実現へのアクション	5分
<休憩>	5分
アイデア発表（各グループ3分）	20分
コメント・質疑応答	10分
撮影の説明	5分
ワーク④フォレストバトン・メッセージまとめ	15分
フォレストバトンメッセージ(各グループ1分) 撮影	20分
閉会挨拶 / アンケート	15分

# 3. 実施方針

## ワークショッププログラム（篠栗町での開催例）

### ③フォレストボタン・パス

理想の未来の実現のためのアイデアやアクションを、次にボタンを渡す学生に向けたメッセージとともに発表・撮影。動画は編集し、次回開催校で放映する。

各地のメッセージ動画をユーチューブにアップロードし、一般公開。各地の生徒が相互のアイデアを知ること、気づきが生まれ、アクションを起こす動機付けにもつながることを狙う。

### ④継続的实施に向けた体制を考察

教育関係者等にコメントをいただき、学校のカリキュラム内で実施する上での検討事項やハードルを明らかにする。地域主体で実施できるよう、ノウハウを「ワークショップ実施マニュアル」に整理。

内容（150分）	時間
ワークショップ導入（都内開催校のメッセージ視聴）地域の案内人、ファシリテーター紹介、フォレストボタン・パスの説明	20分
ワーク①森の印象	10分
ワーク②未来の森を想像する	15分
ワーク③未来予想図実現へのアクション	5分
<休憩>	5分
アイデア発表（各グループ3分）	20分
コメント・質疑応答	10分
撮影の説明	5分
ワーク④フォレストボタン・メッセージまとめ	15分
フォレストボタンメッセージ(各グループ1分)撮影	20分
閉会挨拶 / アンケート	15分

# 森林体験の様子（福岡県篠栗町での森林セラピー）

森の風 篠栗森の案内人  
PTA、篠栗町教育委員会  
篠栗町観光協会等  
の協力のもと実施



修験道と関連の深い歴史  
ある森を、森林セラピーガイ  
ドの案内のもと歩く



大杉の前で、森からの  
メッセージを書き留める



森に寝転び、  
空を眺める



木に抱きつい  
てみる

# 森林体験の様子（静岡県掛川市での森林施業現場視察）

掛川市森林組合、地域づくりに携わる民間企業の協力のもと実施



高性能林業機械による作業見学



伐倒作業の説明



植林された伐皆跡地



電動アシスト付き自転車で林内へ



スウェディッシュトーチ



電動薪割り機を体験



人力による薪割りを体験

# 森林体験の様子（長野県根羽村での森林散策）

根羽学園学生実行委員会、  
根羽村教育委員会、根羽村猟友会、  
（一社）ねばのもり等の協力のもと実施



村内の森の散策



森からツタや葉を採集



ツタを使って縄跳び



森の木や葉を使って、リースやフォレストボタンを制作

# フォレストバトン・メッセージ動画放映 (3分)



## 4. 成果物（一例）

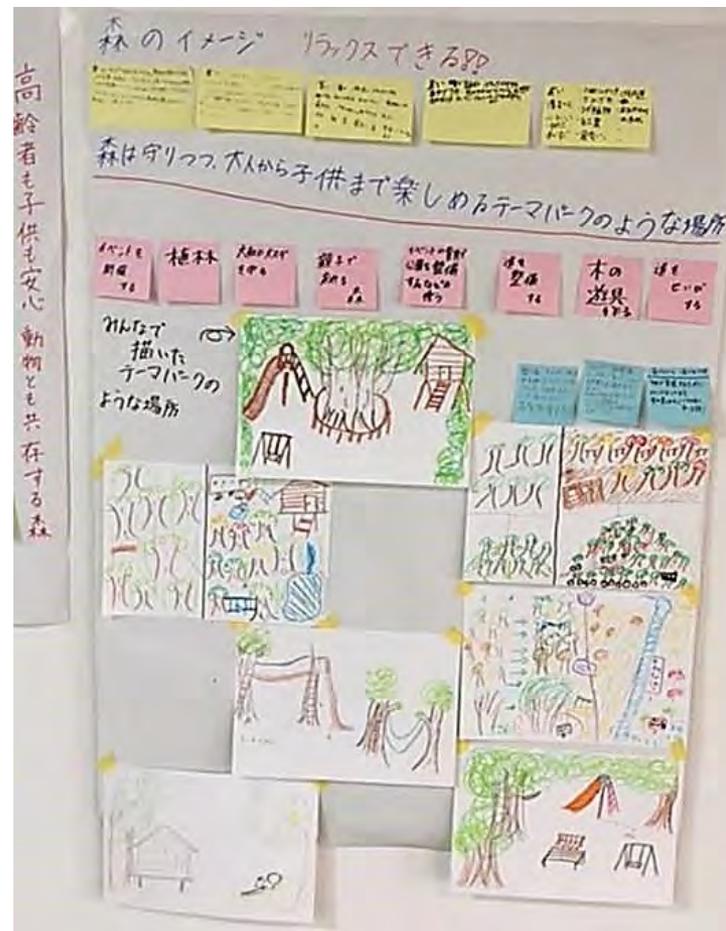
### ① 森の印象

- いやし、歴史、音、神秘、リラックス
- チップ上を歩くと心が落ち着く。
- 苔がつるつる滑る。
- 静かで鳥の鳴き声が聞こえる。
- 針葉樹はレモンみたいな香りがする。
- 緑色で目がよくなりそう。

### ② 未来の森

#### <ビジョン>

- 高齢者も子どもも安心して楽しめる森
- 動物が安心して過ごせるように、安全な場所をつくる。
- 子どもの頃に夢見た秘密基地をつくる。

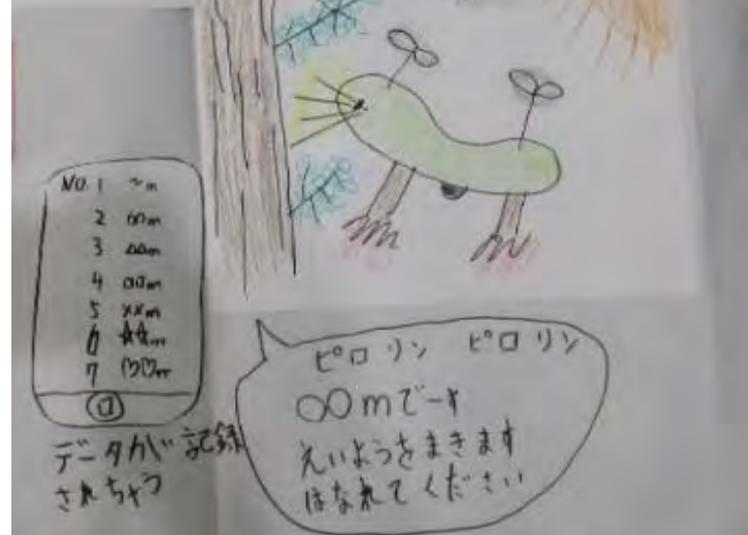




# 4. 成果物（一例）

## <木材の活用>

- ヒノキ、スギからエッセンシャルオイルを作り、加湿器で使う。保湿コスメ。
- 木を丸々お風呂に入れる。
- ヒノキのスモークチップを売った収益で新しい苗木を買い、木が少ない地域に提供する。



## <未来の技術>

- ドローンによる効率的な森林伐採・管理。
- 都会人もハンディキャップを持つ人も森林を感じられるバリアフリーの森林空間
- VR森林案内ロボットで人件費削減。
- 立体音で森を表現し、どこでも森を感じられるように。
- 自然や生物がしゃべる
- 空飛ぶ車やバイクで楽しむ

## 4. 成果物（一例）

### ③未来予想図実現へのアクション

- 森に行って、森を好きになる。
- 森について知る。
- 森にゴミを捨てない。ゴミを拾う。
- まずは林業を身近にすることで、関心をもたせ、支持を集める。
- 子ども世代にも受けが良くなり、担い手が増える。
- 間伐で森を整備することで誰もが来やすい場所にする。
- ツリーハウスが作れるような大きな木を育てるために、間伐作業や植林をする。

#### <参加生徒による感想>

8割以上の参加者が、  
新たな気づきや学びを得たと回答

気づきや学びの例：

- 身近な自然への関心、課題の発見
- 森を知り、関わっていくことの大切さ
- 森林の新たな可能性
- グループワークや発表方法に関する学び

7割以上の参加者が、“森林についてもっと  
知りたい、調べてみたいと思った”と回答。

関心内容の例：

- 世界・日本の森林の現状や生態系保全、森林保全活動
- 森林の利活用の現状と新たな取組
- ワークショップで出たアイデアに関連するもの
- 他の地域の森林環境や取組

➤ **森林体験やワークショップが、森林との関わりを自分ゴト化するきっかけに**

## 5. 提言

### ①継続的な実施に向けて

#### 開催時間の確保

- 学校は、総合的な学習の時間、教科の時間、課外活動、部活動等の時間を、状況と目的に応じて確保。
- 授業時間内に行う場合、前年度から計画的に時間を確保する。

#### 生徒によるプロジェクトの拡大

- 参加学生のオンラインでの交流の場を設定し、他地域との連携を拡大。
- 次年度のワークショップの開催先の募集や、企画・運営、成果物の整理や動画編集等も生徒主体で行っていけるよう、ノウハウを蓄積する。

#### 関係者の協力

- 森林体験の支援や専門知見を有する人材など、地域ぐるみで森林環境教育を行う体制構築が重要。
- 体制を担保する資金の確保を行う。

# 5. 提言

## ②目的に応じたプログラム構成の検討

森林体験の有無を含めたプログラム構成は、下表のメリット、デメリットを参考に、森林の有する多面的機能からテーマを選択するなど、生徒に身に付けさせたい能力や目的次第で判断する。

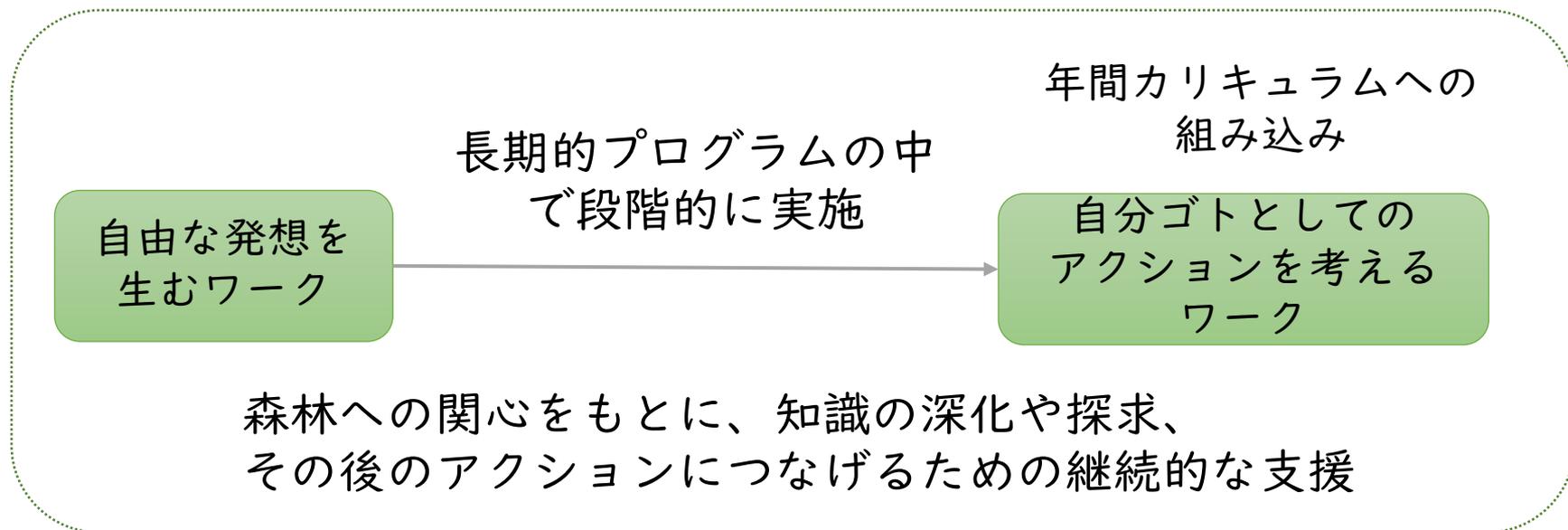
また、森林の文化的側面や保健・レクリエーション分野だけでなく、木材利用など産業としての林業に着目することも重要である。

ワークショップと組み合わせて森林体験を行うことによるメリット/デメリットと目的の設定

体験	目的	メリット	デメリット
あり	<u>身近な森林について、具体的なアクションをとれるようになる。</u> <u>課題解決方法を考えてもらう。</u>	<u>現場感覚に基づき、具体的な課題や可能性を考察できる。</u>	<u>発想が体験内容に縛られがちになる。</u>
なし	<u>森林の新たな可能性に気づかせ、興味を持ってもらう。</u> <u>森林に関心をもち、足を運ぶきっかけを得てもらう。</u>	<u>現実の問題に捕らわれず、自由な発想ができる</u>	<u>森林との関わりを「自分ごと」として捉えにくい。</u> <u>森林との接点がほとんどない場合、発想は限定されかねない。</u>

## 5. 提言

### ③長期的なプログラムデザイン



ご清聴ありがとうございました



## 森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー実施報告

2021年3月3日 最終報告会  
株式会社 かいほつマネジメント・コンサルティング  
一般社団法人 森と未来

令和2年度つたえる、感じる、つながる、  
森林×SDGsプロジェクト共同事業体

**目的：**これまで森林と関わりが少なかった都市住民に対して、今時の価値観・ライフスタイルに合った森林の新たな楽しみ方や過ごし方を提案することにより、都市住民の森林に対する理解・関心を高める。

**実施方針：**「ライフスタイル（働き方を含む）」を重点テーマとし、2つのターゲットを対象とする。

モニターツアー	ターゲット	想定されるニーズ
「森林×SDGs 親子で楽しむ森の時間『ワデュケーション』体験モニターツアー」	親子（7～9歳の子どもを持つ30～45歳の多忙な子育て世代）	子どもに自然体験をさせたいが、仕事が忙しくなかなか休みが取れない。夏休みに学童に閉じ込めておくのは可哀そうだなあ。
「森林×SDGs ポスト・コロナ時代のNew Standard探求モニターツアー」	30～45歳のビジネスパーソン	これからの働き方やライフスタイル、ビジネスの新たな可能性について、森の中で五感を研ぎ澄ましてじっくり考えてみたい。

- 都市住民を中心に「ゆとり」や「やすらぎ」を求める傾向が強まっており、健康志向、環境意識の高まりと相まって、Uターン、Iターン希望者が増加するなど、**新しいライフスタイルを実現する場として森林空間を利用する新たなニーズが顕在化。**
- 「**日常に取り入れられる森の時間**～森と一時的につながるだけでなく、日常生活で森とのつながりを感じる機会をつくる」を共通のコンセプトとし、「地域性」に着目。**地域の特徴を活かしたコンテンツや地域の人とつながる機会を創出。**

# 情報発信：「当事者の真実の声」を重視したメディア戦略

- 消費者は信頼できる本物の情報に飢えており、事実、そして当事者の嘘のない発言こそが、最も強力なコンテンツとなる。
- 大手出版社・企業と連携し、WEBメディア、SNS等を通してツアー内容を発信。

## 第一回「森林×SDGs 親子で楽しむ森の時間『ワデュケーション』体験モニターツアー」

大人



子ども



親子



内容

これまで森林と関わりの少なかった0～8歳の子どもを持つ3組の子育て世代が、森林空間におけるテレワークと休暇（ワーケーション）、森林環境教育プログラム（エデュケーション）を体験する取材企画

開催時期

2020年10月30日（金）～2020年10月31日（土）

実施場所

山梨県北杜市

ターゲット

親子（7～9歳の子どもを持つ30～45歳の多忙な子育て世代）

参加者

地方への移住や自然体験に関心のある、都市在住の3組の親子

協力

北杜市役所

連携企業

白州・尾白の森名水公園「べるが」、白州・山の水農場、アトリエヨクト

協賛

サントリー労働組合白州支部、シャトレーズ

# モニターツアー行程

## ■ 1日目（10月30日（金））

時間	内容	場所
10:05	小淵沢駅集合	小淵沢駅
10:10	小淵沢駅からべるがへ送迎車で移動	移動
10:30	オープニング・オリエンテーション	べるが
11:00	スタンプラリー	
12:00	昼食（お弁当）	
13:00	森林浴体験	
14:30	子供：サクッと工作 大人：テレワーク	
16:00	チェックイン	
16:30	温泉	尾泊の湯
18:30	夕食	べるが
20:00	大人：森×テレワークの座談会	

## ■ 2日目（10月31日（土））

時間	内容	場所
7:15	朝のお散歩	べるが
7:45	朝食	
9:00	チェックアウト	移動
9:30	移動	
10:00	きのこ農家さん訪問～収穫体験 +昼食作り～	山の水農場
11:30	昼食 ～きのこ汁・新米ご飯～	移動
12:30	移動	
12:50	道の駅白州立ち寄り	道の駅白州
13:15	移動	
13:30	スパイスボトルのワークショップ/ インタビュー	アトリエ ヨクト
15:30	移動	移動
16:00	小淵沢駅着 16:10 解散	小淵沢駅

# 参加者情報



名前	基本情報	同伴家族
Aさん	東京都在住、会社員、37歳	妻40歳、息子8歳（小学校2年）、娘6歳（幼稚園年長）
Bさん	東京都在住、会社員・イベント、36歳	娘5歳（未就学児）
Cさん	東京都在住、施設運営業、38歳	妻40歳、息子7歳（小学校1年）、息子0歳児

# 情報発信

1. PR TIMESによるプレスリリース
2. 動画コンテンツによる発信
3. 参加者によるSNS等での発信

## <動画コンテンツ>

- ツアー体験を幅広く発信する6分程度の動画を作成。
- 農林水産省のYouTubeにアップロードした。
- Facebookの「投稿の宣伝」機能を使用し、**国内在住の0歳～12歳の子どもを持つ29歳～45歳の男女**に宣伝した。



親子で楽しむ森の時間～ワデュケーションツアー～

1,656 閲覧数 - 2021/01/14



maffchannel  
チャンネル登録者数 2,225人

登録済み

「親子で楽しむ森の時間～ワデュケーションツアー～」  
テレワークに取り組みながら、森林浴やきのこ収穫、木工体験なども楽しむ、  
森林空間を使った新しいスタイルの提案。

【参考リンク】

・ <https://www.rinya.maff.go.jp/sanson/>

・ <https://www.rinya.maff.go.jp/kikaku/>

一部を表示

# 動画上映

(5分30秒)

## 第二回「森林×SDGs ポスト・コロナ時代のNEW STANDARD探求モニターツアー」



内容

企業経営者、働き方改革先進企業の経営幹部、起業家など5名の参加者が、体験や参加者同士の対話を通じて、ポスト・コロナ時代の人と森との関係性、働き方・ライフスタイルを探求し発信する取材企画

開催時期

2020年11月24日（火）～25日（水）

実施場所

東京都奥多摩町

ターゲット

30～45歳のビジネスパーソン

参加者

ベンチャー企業経営者、働き方改革先進企業の経営幹部、起業家など5名

連携企業・団体

一般財団法人おくたま地域振興財団、Okutama+、Circus Outdoor、東京・森と市庭

# モニターツアー行程

## ■ 1日目（11月24日（火））

時間	内容	場所
10:15	奥多摩駅集合。ハイエースで登計トレイルに移動します。	奥多摩駅
10:30	オープニングセッション	登計トレイル
11:10	森林セラピー（途中森の中でセラピー弁当）	
14:30	東京・森と市庭へ移動	
15:00	製材所見学、取り組み事例紹介、ディスカッション	東京・森と市庭
16:30	Circus Outdoor Tokyoへ移動	
17:00	Circus Outdoor Tokyo着、チェックイン	Circus Outdoor Tokyo
17:30	夕食	
19:30	焚火を囲んだ対話セッション	
21:00	入浴・フリー	

## ■ 2日目（11月25日（水））

時間	内容	場所
7:15	朝の散歩	Circus Outdoor Tokyo
8:00	朝食	
9:00	チェックアウト、Okutama+へ移動	
10:00	Okutama+施設見学、テレワーク体験	Okutama+
11:45	山鳩喫茶に移動	
12:00	昼食	山鳩喫茶
12:45	福社会館へ移動	
13:15	クロージングセッション	福社会館
15:00	解散	奥多摩駅

# 参加者情報



ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社  
取締役 人事総務本部長  
**島田 由香 様**



NPO法人ミラツク  
代表理事  
**西村 勇哉 様**



株式会社SANU  
創設者/ブランドディレクター  
**本間 貴裕 様**



講談社FRaU編集長 兼  
プロデューサー  
**関 龍彦 様**



株式会社ダンクソフト  
企画チーム ダイバーシ  
ティ推進マネージャー  
**中 香織 様**



おくたま地域振興財団による登計（とけ）  
トレイルでの森林セラピー



空がよく見えるよう設計されたベンチ



東京・森と市庭の製材所を見学



サーカスアウトドアの屋外デッキでのたき  
火を囲んだ対話セッション



Okutama+のワーキングスペースでのテレ  
ワーク体験



クローキングセッションでの地域の人との  
ディスカッション

# FR&U 公式WEBサイト掲載記事



2020.12.29 人と森をつなぐ探求ツアー (前編) 記事一覧

森林空間から見出す、ポストコロナ時代における新たな価値観とは【PR】

人と森をつなぐ探求ツアー (前編)

**前編記事：**森林セラピー、製材所見学、森林空間活用等に関する取組事例紹介、ワーケーションなど各プログラム体験を通じた、新たな森林の価値について紹介する内容（2020年12月29日公開）



2021.02.09 人と森をつなぐ探求ツアー (後編) 記事一覧

「今度、森でコーヒー飲もうよ」森林はもっと身近であっていい【PR】

人と森をつなぐ探求ツアー (後編)

**後編記事：**地域の人を交えたクロージングセッション、参加者同士による 焚き火を囲んだ対話セッションを通じた、ポスト・コロナ時代の森林の価値、人と森林の関係性に関する参加者の考え、意見を紹介する内容（2021年2月9日公開）

日本の国土面積約7割を占める森林の価値に気づいていない

宿泊したグランピング施設「Circus Outdoor TOKYO」で焚き火を囲みながら繰り広げられた、熱いトークディスカッションの一部始終をレポート！



写真撮影時間を自由に決める働き方ワーケーションを推進する島田由香さん

島田由香（以下島田） 日本は、国土面積の約7割が森林なのに、その希少な魅力にみんなの意識が向いていませんよね。私が専門とする「ウェルビーイング」の観点から考えると、トレッキングや森林浴など、たった30分でも森の空気を吸って、マインドフルネスの状態をつくることは、ウェルビーイングを確実に高めると実証されています。例えば、森の中でもWi-Fiが繋がっている、絶景が見渡せるスポットにパソコンが置けるテーブルとイスがあるなど、仕事ができる環境が整うととっても良いのでは。

「オフィスにいないと仕事ができない」という概念は取り去られてきています。森林空間をどうワークプレイスのひとつにしていくかが重要じゃないかな。企業が率先して森林空間で過ごす機会を取り入れれば、仕事のパフォーマンス向上にもつながるので良いことしかないですね。

# 都市住民の森林への関心を高めるために必要なこと

## 子育て世代

- ターゲットを明確にする
- 地域の自治体・企業・団体・学校との連携

# 都市住民の森林への関心を高めるために必要なこと

## 子育て世代

- ターゲットを明確にする
- 地域の自治体・企業・団体・学校との連携

## 若手ビジネスパーソン

- ビジネスパーソンにとっての森林空間の価値の整理と普及
- ワークেশョン受け入れ態勢の整備

# 都市住民の森林への関心を高めるために必要なこと

## 子育て世代

- ターゲットを明確にする
- 地域の自治体・企業・団体・学校との連携

## 若手ビジネスパーソン

- ビジネスパーソンにとっての森林空間の価値の整理と普及
- ワークেশョン受け入れ態勢の整備

## 地域性を活かしたコンテンツ形成

- 地域ならではの魅力（自然環境、文化、人など）を取り入れる
- 地域の人暮らしに触れる体験をすることで共感を呼び、印象に残る体験とすることができる

---

ご清聴ありがとうございました。

